

磐城中正新報

發行日 毎月一日 十五日
 郵税共 一部 金 拾 錢
 普通欄十二字詰一行
 一回八十錢場所指定
 同二十錢増
 廣告料 同二十錢増
 印刷 編輯 發行 安澤榮作
 編輯 編輯 編輯 安澤榮作
 印刷 編輯 發行 安澤榮作
 發行所 磐城縣平町舊城跡四
 磐城中正新報社

議會解散準備の 衆議院議員選舉 人名簿愈々完成す

增加人員五十三萬餘

衆議院の解散断行は避くべからざるものとなし内務省による有権者總數は千二百萬餘の測定其の他の準備調査し實に五十三萬一千二百六に苦心し衆議院解散により十八人を増進してゐるが其總選舉が施行さるる場合この内本縣の各選舉區別有権者れに使用さるべき衆議院議員數は左の如し

第一區	八九、七六七
第二區	一三八、五五〇
第三區	七二、二三五
内譯	
市部	二三、四二二
郡部	二六七、一三二
計	二九〇、五五二

昭和三年二月に施行され

減收に悩む 鐵道省が愁眉を開く

新年號の諸雜誌

最近減收で閉口してゐる鐵道省を見做し大部數を全國的道省では唯一の増收を見込に發送する手筈を定めたがでほく／＼してゐるのに新先づ東海道方面から九州滿年號諸雜誌の輸送である近鮮地方へ送る東京驛は一日頃運輸局と出版組合と打合十五噸車十三輛、東北線かせをした由で飽られた圓本は北海道へ送る上野驛が一の反動と不景氣で正月旅行日十五噸車四輛で其の輸送見合せ等で雜誌の賣行激減金は東京驛が七萬七千三

俳句

吉岡獨歩選
 秋冬雜吟
 平町 孤村生
 鉢菊の色褪せてけり冬日
 コスモスや雨肅條と倒れ
 馬車過ぎて人絶えて枯野
 暮れかゝる
 落葉踏んで誰か來るらし
 かさこそと
 竹藪に雀ちぢめく今朝の
 霜
 越す人の唯黙々と枯野哉
 落葉掻き鎮守の森を見守
 りぬ
 旅人の木蔭をさして時雨
 れけり
 夕月を踏めば音ある落葉
 哉
 山里や落葉に注ぐ雨の音
 小川郷 蕨嶽生

控訴公判は

來月十八日
 小名濱大敷網事件に就き小名濱、江名兩漁業組合は高橋巨氏に對し五萬餘圓の損害金を支拂ふべしと云ふ判決に對し兩組合は平町千葉辯護士を代理人として控訴中の所來一月十八日宮城控訴院に於て控訴公判を開く等である

平教育會で

郷土讀本編纂
 平教育會では第一第二兩小學校の中野目、坂内、野木外三訓導に依頼し郷土讀本

を編纂すべく過般來前記諸説述したもので尋常四年以訓導は廢食を忘れて各種の上の生徒に讀ませる計劃で材料を集蒐し目下製本中であるが之に依つて同教育界本月上旬には完成すべくに頗る顯著なる好成绩を期内容を主とし郷土地理歴史待されると共に兩校の努力を主眼に寫真圖入に依り地と諸訓導の熱誠を感謝され方の公民的教材を極平易にてゐる

株式組織が

個人經營となつた

石城郡赤井村福島炭礦は株式組織で山下龜三郎氏が代表者經營であつたが或る事情から今回株式組織を改め個人經營とする事になり新經營者には現礦業所長の菊地徳太郎氏に決定し去る廿四日従業員六百餘名を同炭礦劇場に招集し經營者變更の事非常に遺憾とし右諸會合に適應した便利な席場を新築中の所此の程落成し先月二十一日より四日間巨額の宴會を催し地方の名士五百餘名を招待し新築落成披露の宴を催したが大敷網の盛會であつた

丸昌ホールの

新築落成と披露會
 平南町丸昌商店主吉田昌弘氏は豫てより平町に公會堂及多數の人が集合し講演會協議會相談會並に各種陳列會宴會等に使用すべき所なきを非常に遺憾とし右諸會合に適應した便利な席場を新築中の所此の程落成し先月二十一日より四日間巨額の宴會を催し地方の名士五百餘名を招待し新築落成披露の宴を催したが大敷網の盛會であつた

赤井村の福島炭礦

丸昌ホールの新築落成と披露會
 平南町丸昌商店主吉田昌弘氏は豫てより平町に公會堂及多數の人が集合し講演會協議會相談會並に各種陳列會宴會等に使用すべき所なきを非常に遺憾とし右諸會合に適應した便利な席場を新築中の所此の程落成し先月二十一日より四日間巨額の宴會を催し地方の名士五百餘名を招待し新築落成披露の宴を催したが大敷網の盛會であつた

家賃地代値下の

全國同盟會生る各地の代表が猛運動
 殆んど全國的となつた家賃地代値下運動協議會開値下運動に呼應して過般來東京東京橫濱其の他各府縣の京日比谷市政會館で東京市借地借家人團體代表者約百餘名有志發起の下に全國五十餘名出席先づ運動の實

創立總會

勿來製水會社
 豫て計劃中であつた郡南の川部村三澤に工場を撰定せし勿來製水株式會社の創立總會は去る二十二日午後一時より創立事務所に於て開會し創立委員長の勿來町長大平陸四郎氏議長席につき定款及役員を選任を爲したが大敷網の盛會であつた

家賃地代値下の

各地の代表が猛運動
 殆んど全國的となつた家賃地代値下運動協議會開値下運動に呼應して過般來東京東京橫濱其の他各府縣の京日比谷市政會館で東京市借地借家人團體代表者約百餘名有志發起の下に全國五十餘名出席先づ運動の實

電燈

家賃、地代、電燈等の値下問題の叫びは殆んど全國的となつたが當地方では未だ實現しない要求者が本氣でない故か

電燈

前記の値下に先づ政府は煙草、鐵道の運賃を値下して範を國民に示せ

電燈

不景氣をよそに南町の私娼續々増加す其の内大部分は十六七の小娘である

電燈

國債變造詐欺團檢査取締りに平署警備部補の苦心と警察官としての職務執行振りには同情と多大の敬意を表す

電燈

野黨に收賄の火が付て燃え漸く下火にならんとする時政府の一角に飛火し遂に文部大臣焼き出されの運命に陥りしとは困つたもの

電燈

某々事件の紙上掲載差止めと解禁とで此の頃の檢事局は多大忙である

電燈

愈々年の瀬も近くなつて來た年末大賣出しに地方の各商店では何か新しい方法はないかと頭を痛めてゐるが角別良い方法も發見されず懸賞福引が山

電燈

愈々年の瀬も近くなつて來た年末大賣出しに地方の各商店では何か新しい方法はないかと頭を痛めてゐるが角別良い方法も發見されず懸賞福引が山

郷土吟詠

北斗莊 赤羽松堂

勿來關趾
飛花紛々鐘の袖に落ちて拂はず馬を立て、「吹風を」
高吟したる源將軍の歌碑をたどりて
△(春) 將軍の歌碑を仰げば櫻散る
△(夏) 草若葉櫻若葉や關の趾
△(秋) 碑やたゞ當年の月ばかり
△(冬) 潮鳴りて碑は松風の時雨かな
△ 鮫川所見
△ 道もせに唐紅のつゝじかな
△ 秋酣けて鮫川上る鮎九寸
△ 磐城湯本
△ 湯の嶽は紅葉に晴れて三國の温泉
△ 白水の阿彌陀堂
△ 夏草にかけろひゆるゝ光り堂
△ 炭礦所見
△ 大霜の朝やトロッコ押す工夫
△ 坑口のけふり這ひ行く暮の秋
△ 小名濱 雜感
△ 岸壁や大いなる鯨横たはる
△ 大漁の濱は秋刀魚や鰯塚
△ 魚市場山と積まれし松魚かな
△ 蛸壺の捨てしまゝあり甘藷畑
△ 干潮や磯に和布を刈る女
△ 松ヶ岡公園
△ 櫻咲くや下戸も上戸も松ヶ岡
△ 銅像や赤きつゝじの夕映す
△ 花も人もたゞよふ新川堤かな
△ 遅き日の霞に暮れて尼子橋
△ 高月台
△ 老杉やけふるかこく五月雨るゝ
△ 赤井嶽水晶山々房
△ 涼しさや太平洋の風まとも
△ 参道は夏尚寒し檜の木立
△ 秋晴や磐城七濱指呼にあり
△ 川前紅葉狩
△ 碧潭に燃ゆるばかりのつゝじかな
△ 楓林にひねもすそろゝ暮れ
△ 仁井田浦

△ 千鳥啼く仁井田の浦の苫屋かな
△ うらゝかや波も静けき新舞子
△ 東海の松露どころや新舞子
△ 防風や網干してある仁井田浦
△ 鹽屋 岬
△ 燈臺に霧立ちのぼる怒濤かな
△ 雲雀 野
△ 秋の空いよゝ高し無電塔
△ 野馬掛や甲冑の將士繪のごとし
△ 夜櫻に聞きたり唄の流山
△ 新田川
△ 時雨けり晴れけり鮎の新田川
△ 松川浦
△ 島松の汐にさゝやく春甘かな
△ 浦の家は前も後も海苔賣かな
△ 松川浦の一夜
△ 鱸の藻朶焼き蛤のうしほかな
△ 春の夜の麥搗唄や聞さみし
△ 馬陵城跡
△ 殘壘やしたゝか萩の亂れ咲く

平 騾 前 通 り
永 山 酒 造 店 總 發 賣 元
電 話 二 〇 七 番

銘酒 張魚 敏速 配達

銘酒 近藤 馬目支店 町田平 番四五二話電

商標 最優良 清酒 永山 繁木 釀造元 石城郡飯野村

銘酒 福美 石城郡内郷村 釀造元 四家又一

市原醫院 平町田町(電話一一四番)
内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男
入院隨時

良品廉賣に勝る商略なし 磐城平町五丁目 磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵 釜屋商店 電話九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷はの生命なり

外科 一般外科 婦人科 泌尿科 醫學士 海津俊一
× 光線科 院長 新木下寅一郎
赤心堂病院 平町田町電話四七五

御進物には ヤマフルの商品券が一番 醬油味噌たひら正宗 經節其他食料品
山崎合名會社 平町田町電話一〇番

高久病院 院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科 平町田町 電話五二三番

靴 の御用は品質優良体裁優美 價格低廉の弊店へ 平町搔搔小路 仙臺屋靴店 店主 廣邊勸太夫